

時の動き

安倍改造内閣の正体

私鉄京成労働者

芳賀 芳美

安倍首相は、森友疑惑や加計疑惑により30%代まで低下した内閣支持率を取り戻そうと、8月3日、内閣改造と自民党役員人事を行いました。勿論背景としては、東京都議会議員選挙の大敗北をうけることだと思えますが、さて、本当に退陣すべきは安倍首相本人であるべきでした。国会を軽視したこれまでの重要法案（特定秘密保護法、安保関連法、共謀罪）の強行採決など、とても民主主義と呼べる手法でなかったからです。十分な野党への答弁もせず、審議では委員会採決を経ず、「中間報告」という手法をもって本会議の採決を行いました。「究極の強行

採決だ」と野党が指摘し、反発を強めたことはもつともなことでした。さらに、首相本人および安倍昭恵の関与が指摘された森友学園問題、そして加計問題です。「安倍首相を監獄へ！」というプラカードが国会前で掲げられていましたが、まさに「モリ・カケ」問題が安倍首相自身の疑獄事件ではないかと国民には受け取られているからです。

先に挙げた内閣支持率の急落はこのような背景があると国民が受け止めたからです。マスコミによる世論調査では「安倍首相が信頼できないから」とその理由が掲げられていました。

「記憶にありません」
「記録がありません」

このように関係関係も官僚も答弁していましたが、証拠となる文書や記録が未端自治体から提示されても隠し続けました。そして代表的なのが虚偽答弁を繰り返した佐川宣寿前理財局長の国税庁長官への処遇でした。論功行賞という言葉がありますが、「記憶にありません」「記録がありません」で国会参考人招致での答弁に対して、官邸は佐川に対して昇格人事を行いました。安倍疑惑に対して身をもって防衛したということではないでしょうか。しかし、官邸や省庁が関係文書や来庁記録



東京都議選安倍やめろコール

がそのように簡単に廃棄されるのか、抹消されるのか、国民が疑惑を深めても当然のことです。

疑惑隠しと海外逃亡？

に手を貸す官邸

在イタリア日本大使館1等書記官に

栄転した安倍昭恵付き秘書官だった谷查恵子氏の処遇はまさに官邸・安倍首相の疑惑を深めた結果ではないでしょうか。マスコミはこれら報道も付度あやしているのか、小さな扱いで終始していません。

各省庁の人事権が官邸主導（内閣府）で行われるとすれば、官僚は権力者に「付度」することになるでしょう。

臨時国会は本丸を撃て

改造人事を見ると、如何に自民党は人材が枯渇してしまったのか、の感があります。目先を変えようと今度の内閣改造では河野太郎と野田聖子を目玉にしたようですが、このことを見ると、安倍首相の「改憲」への野望がますます強くなったと判断できます。改造前の閣僚では「改憲」が難しいと考えた上での謀略でしょう。しかも、次々と新閣僚のスキヤンダルと古傷が暴かれています。安倍改造内閣の正体をこの

ように考えるべきでしょう。

そして、臨時国会です。各委員会になるのか予算委員会になるのか国会審議に期待を持つのですが、森友学園での国有地払い下げ疑惑や、加計獣医学部建設の設計段階の建設費上乘せ疑惑など、本丸は内閣を司る安倍晋三首相本人です。証人喚問は自民党が数の力で拒否を重ねると考えられますが、あくまでも野党が喚問を要求することで安倍内閣の本質が明らかになります。

証人喚問は、安倍首相本人、安倍昭恵、佐川宣寿、籠池泰典、谷查恵子、加計孝太郎、前川喜平前文科事務次官等々です。この疑獄とも呼べる事件を明らかにし、改憲首相にお引き取り願うのが現時点では最善の「改憲」拒否になると考えますが。

更に付け加えると、小野寺五典防衛大臣の目論む防衛予算増額を拒否しましょう。

（はが よしみ）